

に休憩所がある。

(4) 体力づくりサーキットコース

持久力、巧み性、瞬発力、平衡性などを培う目的で、自然の家の起伏に富んだ敷地をフルに活用しての体力づくりコースが設定されている。コース内には、主な種目として、ロープを使ったがけ登り、重量挙げ、竹棒登り、丸太渡り、ターザン遊びなどがある。

5 主なる備品

(1) 体育的備品

① 屋 外

- ソフトボール用具一式 ○軟式野球用具一式
- サッカー用具一式 ○バレーボール用具一式
- スノーボード（50台）

② 屋 内

- 卓球台（7台） ○卓球用具（7セット）
- バスケット用具一式 ○ポートボール用具一式
- バドミントン用具一式 ○セーフティマット（2。）
- 踏み切り板（2）

③ 野 営

- テント（6人用30張） ○炊飯用具一式
- 寝具類

(2) 学芸的備品

① 視聴覚器材

- 16%映写機 ○ポータブルプレーヤー ○OHP
- ワイヤレスアンプ・マイクロフォン
- スクリーン（2台） ○テープレコーダー（2台）
- カセットレコーダー（2台） ○4chステレオ
- スライド映写機 ○鑑賞用・レク用レコード
- ピアノ ○エレクトーン ○アコーディオン（2台）
- トランシーバー（2台） ○ハンズスピーカー（2台）
- ギター（2台）

② その他

- 大工道具セット（7個） ○図書多数

6 職員組織

職 名	所 長	次 長	主 事	指 導 主 事	主 技 任 保 健 師	用 兼 運 務 運 転 員 手	計
人 員	1	1	2	4	1	1	10

第3節 利用状況

少年自然の家の利用は、①学校教育の一環として利用する場合 ②少年団体等社会教育関係団体が利用する場合 ③少年団体指導者養成のため市町村教育委員会等が利用する場合 ④県並びに少年自然の家の主催事業に参加する場合等に大別される。

本年度の利用総人員は 234団体（前年度は 171団体）、研修実人員19,312人（前年度は14,728人）、延べ研修人員は

47,157人（前年度は35,882人）であったが、その詳細な利用状況は、次のとおりである。

1 学校が利用したもの

利用した学校、学年、研修人員並びに研修内容は表1のとおりである。

2 社会教育関係団体等が利用したもの

利用団体、研修人員並びにその研修内容は表2のとおりである。

3 少年団体指導者養成のため利用したもの

主催団体、研修内容、参加対象並びに研修人員は表3のとおりである。

4 少年自然の家の主催事業

(1) 親子キャンプ登山の集い

① 目 的

キャンプ及び登山を通じ、大自然に親しみながら、親子の心の交流と、参加者相互の親睦、健康の増進を図る。

② 期日・会場・参加者数

ア、期 日 昭和49年8月2日～4日

イ、会 場 福島県少年自然の家

ウ、参加者 親子又は地域のグループ（原則として子供5人に成人1人の6人グループ編成）単位で参加 132名

③ 研修内容

- 御霊櫃峠登山 ○キャンプファイヤー
- 野営訓練 ○炊飯コンクール
- ハイキング ○レクリエーション、交歓会

(2) 親子の集い

① 目 的

親子での共同宿泊生活を通じ、福島県少年自然の家周辺の紅葉を鑑賞しながら、野外レクリエーションなどに楽しい一時を送って、親子の交流を深め合うことに役立つ。

② 期日・会場・参加者数

ア、期 日 昭和49年10月19日～20日

イ、会 場 福島県少年自然の家

ウ、参加者 県内の小学生とその親 120名

③ 研修内容

- 親子オリエンテーリング。
- 親子レクリエーション大会。
- 親子レクダンスの集い。

(3) 少年自然の家利用連絡協議会

① 目 的

昭和50年度利用予定学校の代表者による利用に際しての申込み手続き、教育課程編成上の手続き、及び研修内容等についての研究協議をし、少年自然の家の効率的な運営を図ることを目的とする。

② 期日・会場・参加者数

ア、期 日 昭和50年1月30日～31日